



トランスフォーメーション パターンの設定

トランスフォーメーションパターンのウィンドウのパラメータは、宛先デバイスの発信側トランスフォーメーション コーリング サーチ スペースを使用して、適切な発信者情報を提供するために使用されます。トランスフォーメーション パターンを使用するコールは、ルーティングできません。このパターンと一致した場合、コールはデバイスにルーティングされません。

トランスフォーメーション パターンを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [トランスフォーメーション パターンの検索 \(P.61-2\)](#)
- [トランスフォーメーション パターンの設定 \(P.61-3\)](#)
- [トランスフォーメーション パターンの削除 \(P.61-4\)](#)
- [トランスフォーメーション パターンの設定値 \(P.61-4\)](#)
- [関連項目 \(P.61-8\)](#)

トランスフォーメーション パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかのトランスフォーメーション パターンが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、固有の条件を指定して、特定のトランスフォーメーションパターンを見つけることができます。トランスフォーメーションパターンを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理では、ブラウザ セッションでの作業中は、トランスフォーメーション パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、トランスフォーメーションパターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [トランスフォーメーションパターン] の順に選択します。

[発呼側トランスフォーメーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Calling Party Transformation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[ステップ 3](#)に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注)

該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.61-8 の「関連項目」を参照してください。

トランスフォーメーション パターンの設定

トランスフォーメーション パターンを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [トランスフォーメーションパターン] の順に選択します。

[発呼側トランスフォーメーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Calling Party Transformation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のトランスフォーメーション パターンをコピーするには、対象となるトランスフォーメーションパターンを見つけて (P.61-2 の「トランスフォーメーションパターンの検索」を参照)、コピーするトランスフォーメーションパターンの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいトランスフォーメーション パターンを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のトランスフォーメーション パターンを更新するには、対象となるトランスフォーメーションパターンを見つけて (P.61-2 の「トランスフォーメーションパターンの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 表示される [発呼側トランスフォーメーションパターンの設定 (Calling Party Transformation Pattern Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します (表 61-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.61-8 の「関連項目」を参照してください。

トランスフォーメーション パターンの削除

トランスフォーメーション パターンの削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.61-2 の「トランスフォーメーション パターンの検索」の手順を使用して、削除するトランスフォーメーション パターンを見つけます。
- ステップ 2** [削除] をクリックします。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。

追加情報

P.61-8 の「関連項目」を参照してください。

トランスフォーメーション パターンの設定値

表 61-1 では、発呼側トランスフォーメーション パターンの設定値について説明します。

表 61-1 トランスフォーメーション パターンの設定値


フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[パターン]	<p>数字とワイルドカード (スペースを使用しない) を含むトランスフォーメーション パターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を指定できます。</p> <p> (注) パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、トランスフォーメーションパターン、ルートパターン、トランスレーションパターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、またはミーティング番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <p>ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。</p>

表 61-1 トランスフォーメーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パーティション]	<p>パーティションを使用してトランスフォーメーション パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。トランスフォーメーション パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに [< なし >] を選択します。パーティションの使用方法の詳細については、P.45-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索] ボタンが表示されます。[検索] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。P.45-2 の「パーティションの検索」の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p> (注) トランスフォーメーション パターンは、ルート パターンや電話番号などのダイヤル パターンと異なるヌルでないパーティションで設定する必要があります。トランスフォーメーション パターンを検索するとき、ヌルパーティションのパターンは無視されます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p> (注) パターン、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、固有のものであることを確認してください。</p>
[説明]	トランスフォーメーション パターンの説明を入力します。
[番号計画 (Numbering Plan)]	番号計画を選択します。

表 61-1 トランスフォーメーションパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>トランスフォーメーションパターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示する項目数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのルートフィルタが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索] ボタンが表示されます。[検索] ボタンをクリックして、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウを表示します。P.35-2 の「ルートフィルタの検索」の手順に従って、ルートフィルタ名を検索し、選択します。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[発呼側変換 (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を CLID (発呼側回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。</p> <p> (注) ルートリスト内のルートグループに割り当てられる発呼側変換設定値は、そのリストに関連したルートパターンに割り当てられている発呼側変換設定値をすべて上書きします。</p>
[発呼側変換マスク (Calling Party Transform Mask)]	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発呼側変換は行われません。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「発呼側番号の変換設定値」を参照してください。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 61-1 トランスフォーメーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR (発信側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[デフォルト] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、[許可] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 15-6 を参照してください。</p>
[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR (発信側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、[デフォルト] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の名前情報を表示させる場合は、[許可] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の名前情報を表示しないようにする場合は、[非許可] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 15-6 を参照してください。</p>

追加情報

P.61-8 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [トランスフォーメーション パターンの検索 \(P.61-2\)](#)
- [トランスフォーメーション パターンの設定 \(P.61-3\)](#)
- [トランスフォーメーション パターンの削除 \(P.61-4\)](#)
- [トランスフォーメーション パターンの設定値 \(P.61-4\)](#)
- [ルート フィルタの検索 \(P.35-2\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート パターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [パーティションの設定 \(P.45-1\)](#)

参考資料

- *Cisco Unified Communications Manager Serviceability システム ガイド*